

おほとものさかのうへのいちつめ
大伴坂上郎女、親族を宴する日に吟ふ歌

一首

四〇一番

山守やまもりの ありける知らしに その山やまに 標結しめゆひ立たて
て 結ゆひの恥はぢしつ

おほとものすくねするが まろすなはこた
大伴宿禰駿河麻呂即ち和ふる歌一首

四〇二番

山守やまもりは けだしありとも 我わぎ妹子もこが 結ゆひけむ標しめ
を 人解ひととかめやも

おほとものすくねやかもち
大伴宿禰家持、同じ坂上家の大嬢に贈る歌

一首

四〇三番

朝あさに日けに 見みまく欲ほりする その玉たまを いかかにせ
ばかも 手てゆ離かれずあらむ